

16 緯度の変化で植物相はどのように区分することができるだろうか

雨に恵まれたわが国では、おもに気温のちがいで、いろいろな森林が带状に分布しています。このありさまをみてみましょう。

南から北へ緯度がちがってくると気温がちがってきます。そして植物の分布のようすが変わってきます。これを水平分布といいます。

わが国の水平分布は、図-36のように4つの帯に分けられます。

琉球本島から南の方は亜熱帯で、代表的な植物はソテツ・ヘゴ・リュウビンタイなどです。

九州や四国、さらに本州の西南部の暖かい地方には、安定した自然林

(極相)として常緑広葉樹が分布しています。おもにシイ・カシ・タブなどで代表され、それぞれ別の林をつくったり、まじりあった林をつくったりしています。このはかクス・ツバキなどが多く、これらの植物は、葉の表面がてらてらと光るので、照葉樹とも呼ばれています。この暖帯広葉樹林の分布する範囲は年平均気温がおおよそ13～21℃の地域です。

本州の東北部から北海道の西南部までの年平均気温6～13℃の温帯では、ブナやミズナラからなる落葉広葉樹林がその代表的な森林です。このほか、トチ・カツラ・イタヤカエデなど多くの落葉樹が分布しています。これらの落葉樹林は、冬に落葉し、夏に緑になるので、夏緑樹林と呼ばれることもあります。

また暖帯から温帯にかけては、モミ・ツガ・スギ・ヒノキ・ヒバなどの針葉樹が自然林として分布していることが多い。

北海道の東北部の年平均気温が6℃以下になると、エゾマツ・トドマツなどの常緑針葉樹が代表的な極相となります。この亜寒帯には、カンバやナナカマド

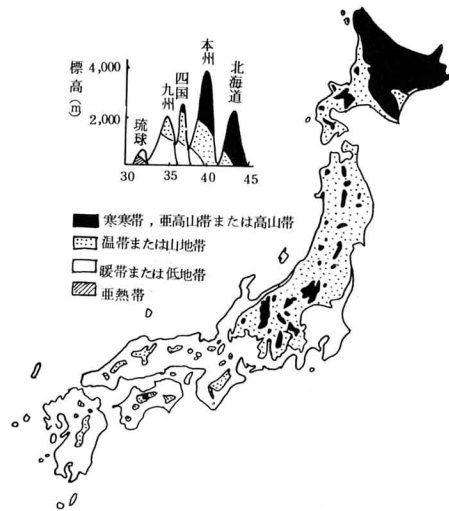


図-36 日本の自然林植生分布図 (本多1927より)